



第18回 ER主催臨床セミナー

第1部 動物救急センター練馬 センター長 西尾 里志

第2部 北里大学獣医学部獣医学科

小動物第2外科学研究室准教授 岩井 聡美 先生

日時 | 2020年2月9日(日)
13:00~19:00
開場・受付開始 12:40~

会場 | 町田市文化交流センター
会議室 けやき東
東京都町田市原町田4-1-14
プラザ町田 5階

参加費 | 無料

定員 | 先着 60名

参加申込書をFAXでお送りください



13:00~15:30
第1部 救急獣医療現場における脳外科と内科 動物救急センター練馬 西尾 里志

救急医療において脳障害は心原性肺水腫、異物誤飲、尿路閉塞、腹腔内腫瘍破裂などととも発症比率が高く生命の緊急性を伴う病態に陥っている事が多い。過去に多かった水頭症症例やジステンパーによる脳炎、交通事故頭部外傷は激減する中、脳腫瘍・脳炎・脳梗塞の増加・事故は自動車事故から家庭内での階段やベランダからの落下事故と変遷してきた。救急センター練馬において 2013年4月から2019年3月まで実施してきた開頭手術53症例についてご紹介するとともに、一般病院を痙攣 意識障害 脳幹部障害などで来院したときに、まず救命のために対処できることと八王子新施設も含め即日受け入れをする体制についてご案内します。

16:00~19:00
第2部 マイクロサージェリーによる尿管の外科
 北里大学獣医学部獣医学科小動物第2外科学研究室 准教授 岩井 聡美 先生

===岩井先生より先生方へ===
 手術用顕微鏡を用いることは、今まで見えていなかった世界を見える世界に拡大することで、より丁寧に組織を取り扱うようになり、侵襲の低減や痛みの軽減にも役立つ。特に、猫の尿管は体重を考えても、相対的に犬よりもかなり細いため、マイクロサージェリー手術を行うことで、組織の視認性を向上させて手術する必要がある。尿管の外科手術法としては、尿管切開術、尿管の端々吻合術(尿管部分切除)、尿管膀胱吻合術があり、術式の最終的な決断は術中の肉眼的状態と触診、閉塞範囲の確定をしたのちに行っている。猫では、閉塞による痛みや、線維化、手術によって、尿管の蠕動運動が停止するため、腎瘻チューブを設置してから尿管の手術を行う方がより安全である。本講演では、このような手術用顕微鏡を用いた尿管の手術法や腎瘻チューブの設置法などについて解説したい。